

文法の特訓

副詞・連体詞編

・小学高学年以上向き・

もくじ

「文法の特訓 副詞・連体詞編」について 2
 このテキストのつかい方 3

ことばの種類	4	テスト一	12
副詞	6	テスト二	16
問題一	7	テスト三	20
副詞の呼応	13	テスト四	24
問題二	14	テスト五	33
問題三	17	テスト六	35
擬声語・擬態語	21	テスト七	42
問題四	22		
連体詞	25		
問題五	29		
問題六	34		
問題七	36		
解答	43		

難易度	1	2	3	4	5	受験	難
	←→						

問題一、次のア～エのうち、副詞を一つ選んで、記号で答えなさい。

1、ア、見る イ、だめ ウ、ゆっくり エ、言え

2、ア、長く イ、かなり ウ、悪い エ、苦手な

3、ア、広島 イ、明るい ウ、とても エ、しかし

4、ア、はっきり イ、白い ウ、ビール エ、あまい

5、ア、行く イ、どんどん ウ、走れ エ、おはよう

問題二、**副詞**の部分に注意して、次の□に当てはまるようにひらがなを書き入れなさい。

例、ぼくは**決して**ウソはつか

ない

。

1、**ぜひ**訪ねて

。

2、**ちょうど**りんごの

色だった。

。

3、**どうして**川を渡ることができよう

。

4、私は**たぶん**参加しない

。

5、それは**まるで**作り話の

。

6、**たとえば**うそだとし

、君についてゆこう。

7、**さぞ**楽しい旅行だった

。

8、**もし**晴れ

、プールに行こう。

問題三、**ぼう線**の部分に注意して、次の□に当てはまるように、後の語群から副詞を選んで書き入れなさい。

1、
その川で泳いではいけない。
良い天気だったとしても、

2、その石は
げんこつのような形だ。

3、
そんな話を信じられようか。

4、かれは
勉強しているだろう。

5、
お越しください。

ちようど たぶん 仮に どうして どうぞ

問題四、それぞれの文の（ ）には、同じ擬声語あるいは擬態語が入ります。後の□に合うようにひらがなを書き入れて答えなさい。（擬声語の場合もひらがなでよろしい。）

例、時計が（ ）に凍っている
氷が（ ）に凍っている

こ
ち
こ
ち

1、うどんを（ ）すする。
雪道は（ ）すべって危ないよ。

2、汗が（ ）と流れてきた。
文句を（ ）言う。

3、ブタが（ ）鳴いている。
（ ）文句を言う。

4、刀を（ ）ふりまわす。
はちが（ ）飛んでいる。

問題五、次のア～エのうち、連体詞を一つ選んで、記号で答えなさい。

1、ア、書く イ、楽しく ウ、四角い エ、たいした

2、ア、青い イ、例の ウ、急に エ、弁護士

3、ア、あらゆる イ、喜ぶ ウ、ラジオ エ、細い

4、ア、歌う イ、湯 ウ、とんだ エ、まずい
(「思いがけない」の意)

5、ア、札幌 イ、まぶしい ウ、あの エ、やはり

問題七、次の文章から、副詞、連体詞をさがし、書き抜いて答えなさい。

1、きゆう急な坂道さかみちをゆっくり登のぼっていると、夜空よぞらにきらきらと無数むすうの小さな星ちいさがはつきりほしと見みえた。その瞬間しゆんかん、ぼくの頭あたまなかの中にあつたかんがいろんな考えかんがは、どこかへ消きえてしまった。

副詞（3つ）

--	--	--

連体詞（3つ）

--	--	--